

# 工夫が求められる今こそ、非認知能力を育成する特別活動を生徒主体の活動に

学校行事や生徒会活動などの特別活動も、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止や延期が余儀なくされている。そうした事態に直面し、改めて、生徒の成長に寄与する特別活動の意義を実感したといった学校現場の声も多い。そこで、次年度以降の教育活動計画に特別活動をどう位置づけ、実施していけばよいのか、3校の校長が語り合った。

## 特別活動の状況

### 感染予防のアイデアを 生徒が中心となって出し合う

——新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、学校行事においては、どのような対応をされていますか。

**常松**

本校で中止とした学校行事は、1学期では芸術鑑賞会と球技大会です。教師間では学校行事の実施について賛否両論ありましたが、島根県は臨時休業期間が1か月半足らずと比較的短かったため、授業の遅れも学校再開後の工夫で十分補えるかと判断し、学校行事の時間を比較的削りませんでした。いわゆる「3密」を避けるよう最大限に配慮し、例えば、毎年9月上旬に行っている学園祭は、規模を縮小しつつ、例年通り3日間開催しました。生徒が提案してくれた様々な感染予防策の1つとして、体育館でのイベントは、観客数を制限した上で演目ごとに座席を指定し、「3密」を防ぐようにしました。

**藤野**

都立高校では、東京都教育委員会の判断により、大半の学校行事を中止または延期としています。ただ、私自身、集団で1つの物事を成し遂げる特別活動が、生徒の人間的

な成長に与える影響は大きいと強く感じています。そこで、生徒や教師に、「感染予防ガイドライン」に沿うことは前提として、実施を可能にする工夫を考えよう」と呼びかけ、中止した文化祭と体育祭の代替となる「活動報告会」の実施を提案しました。生徒会役員と各委員会が中心となつて計画を立て、全校生徒の熱意と創意工夫により、9月中旬に皆が充実感を得られる行事を実施できました。

**中森**

本校でも、生徒会執行部の約40人が臨時休業中からオンライン会議ツールで議論し、感染予防に配慮した計画を立て、学校祭などを実施しています。生徒会ではほかに、臨時休業期間中、ウェブサイト上に意見箱を設置して生徒からの様々な質問に答えたり、新入生に向けて制服の着こなし方を紹介する記事を配信したりと、高校生活を支援する活動を自主的に行っていました。

——学級づくりの軸となるホームルーム活動も十分実施できなかったと思います。

**藤野**

臨時休業中は、生徒が抱えている不安や負担を教師間で共有・理解しながら、どのように生徒を支援



島根県立松江北高校  
校長 常松 徹

福井県立若狭高校  
校長 中森 一郎

東京都立三鷹中等教育学校 統括校長 藤野 泰郎

していくかが、大きな課題だったと思います。本校では、全生徒が1台ずつタブレット端末を所有しており、臨時休業の開始時からオンライン会議ツールでホームルームを毎日実施しました。当初は、1クラス約40人全員でホームルームを実施していましたが、画面越しでは生徒一人ひとりの様子をつかむことが難しくなったため、担任・副担任が半分ずつ受け持ち、ホームルームの時間を

使って生徒と1対1で順番に話す形にしました。教師が生徒の声を丁寧に聞くことで、生徒との信頼関係を築くことができました。それは、6月の学校再開後のスムーズなクラス運営にもつながりました。

**中森** 本校も、4月中旬から毎朝、生徒各自が体調や前日の学習時間などを「Google フォーム」(\*1)で報告し、担任がそれを確認して、気になる生徒に電話して話を聞くようにしました。本校では今年度から、生徒が自分のやりたいことを見つけ、それに思う存分取り組める高校生活を送れるよう、教師が支援することを目指し、「指導」から「支援」への転換を図っています。各部署主導から、学年会を軸とした体制に刷新し、学年間の連携も密にして情報共有を図り、学年会による支援体制を築いておいたことが、臨時休業中の生徒支援に効果を上げました。

**常松** 本校では臨時休業中、週2回程度、担任と副担任が分担をして生徒に電話をかけ、状況把握に努めました。毎日の健康観察を生徒自身に「Class」(\*2)で報告させて、気になる内容を入力していた生徒には、担任が連絡を取るようになりました。

三鷹中等教育学校の取り組みを伺い、画面越しでも生徒と教師が対面でコミュニケーションを取る重要性を改めて感じました。教師による生徒支援を強化するためにも、ICT環境を整備したいと考えています。

#### 特別活動の意義

### 集団で物事を成し遂げる経験が非認知能力の育成につながる

——3校とも、制約がある中でも工夫して特別活動を実施されています。改めて、特別活動の意義をどのように感じられていますか。

**常松** 例えば、学園祭では、生徒が意見を出し合い、様々な調整をしながら準備を進め、問題が起きても解決策を考えて乗り切るなど、最後まで物事をやり抜く力やレジリエンスが必要とされます。それらは、社会で生きるために必要な資質・能力であり、学校行事や生徒会活動、部活動などは、そのような非認知能力の育成に必要不可欠であると、常々思っています。本校では、学外から大勢来場する学園祭の実施の是非が大きな議論となりました。どの学校でもそうだと思いますが、学園祭は

生徒が力を入れて取り組む最も楽しみな行事の1つです。職員会議では、感染防止の観点から中止という意見も出しましたが、教師も生徒も、学園祭の意義を十分理解していたため、感染症対策をしっかりとした上で実施するという結論に至りました。

**藤野** 本校では、理科で年間50回以上の実験を行うなど、体験学習を重視しています。学校行事は、体験学習の最たる例であり、行事当日に加えて、準備や振り返りなど、生徒が主体となって活動することで多くのことを学びます。相手の目を見て、言葉を交わすことは、人間だからこそその行動です。直接コミュニケーションを取り、一体感を持って集団で物事を成し遂げることは、学校にきて、学校行事や生徒会活動をしてこそできる経験であり、これほど大事な教育活動はないと、教師、生徒、保護者の誰もが強く感じています。

**中森** 本校の学校祭や体育祭、合唱コンクールでは、クラス単位のほかに、学年縦割りチームでの対抗戦も行います。異年齢の集団での活動という点では同じ部活動ともまた違う貴重な経験となります。今年度の体育祭のフィナーレでは、中止した合

唱コンクールに代えて全校生徒で合唱を行いました。夕暮れの空に美しいハーモニーが響きわたり、言葉では表現できない感動がありました。

——対面での集団活動が、生徒の成長をもたらすということですね。

**中森** 今年度の学校行事は、感染予防に配慮した計画を立てなければならず、それは教師にも経験がないことだったため、生徒と同じ目線で議論してきました。生徒会執行部を中心に知恵を出し合い、協力し合って、一から行事を創り上げてきました。生徒会担当の教師は、「今年度の生徒会執行部は、例年以上に主体的に取り組み、責任感も強い」と評価していました。コロナ禍だからこそ、伝統行事はもちろん、新たな学校行事を生徒主体で創り上げる好機だと捉えられるでしょう。

#### 次年度の活動計画立案のポイント

### 特別活動を他の教育活動と有機的に連動させる

——新学習指導要領の実施を見据え、次年度以降の教育活動計画に特別活動をどのように位置づけ、実施していくのがよいとお考えですか。

\*1 アンケートを作成し、そのアンケートの集計や分析を行えるオンラインツール。

\*2 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。



**中森** 本校で鍵となるのは、探究学習と特別活動の連動です。本校の学

校祭では、社会課題の中からテーマを選んで探究し、提案する、クラス単位の企画があります。海洋科学科のクラスが「海洋酸性化の実態」をテーマにするなど、探究学習の研究テーマと関連した社会課題をテーマ



東京都立三鷹中等教育学校 統括校長

**藤野泰郎** ふじの・やすろう

教職歴38年。同校に赴任して4年目。

### 東京都立三鷹中等教育学校

◎東京都立三鷹高校を母体に開校した中高一貫教育校。基本理念に「思いやり・人間愛を持った社会的リーダーの育成」を掲げる。東京都教育委員会「東京グローバル10」[Society5.0に向けた学習方法研究校]などの指定校。

◎設立 2010（平成22）年

◎形態 全日制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約160人

◎2020年度入試合格実績（現浪計）

国立大は、北海道大、東北大、筑波大、東京医科歯科大、一橋大、京都大、九州大などに42人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ468人が合格。

◎URL <http://www.mitsumori-e-metto.tokyo.jp/site/zen/>

に選んだクラスもあります。資質・能力の育成に効果的な学びとするた

めには、授業や特別活動、さらには部活動も含め、すべての教育活動が有機的に連動したカリキュラムをつくる必要があると考えています。

**藤野** 中森校長が言われた通り、カリキュラム・マネジメントの視点は



福井県立若狭高校 校長

**中森一郎** なかもり・いちろう

教職歴35年。同校に赴任して2年目。

### 福井県立若狭高校

◎教育目標は、「異質のものに対する理解と寛容の精神」を養い、教養豊かな社会人の育成を目指す。文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」の指定は現在2期目。「日本イノベーション教育ネットワーク」研究校。

◎設立 1897（明治30）年

◎形態 全日制・定時制／全日制は、普通科・文理探究科（国際探究科、理数探究科）、海洋科学科／共学

◎生徒数 1学年約300人

◎2020年度入試合格実績（現浪計）

国立大は北海道大、東北大、筑波大、金沢大、福井大、神戸大などに80人が合格。私立大は、東京理科大学、明治大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ349人が合格。

◎URL <https://www.wakasa-h.ed.jp>

重要です。本校であれば、教育理念の「思いやり・人間愛を持った社会的

リーダーの育成」の達成に向けて、教育活動計画に特別活動をどう位置づけ、実施していくのか。コロナ禍による新たな生活様式の中で、学校行事やホームルーム活動、生徒会活動などを発展させるためにはどうす



島根県立松江北高校 校長

**常松徹** つねまつ・とる

教職歴36年。同校に赴任して2年目。

### 島根県立松江北高校

◎教員伝習校変則中学科を前身とする伝統校。校訓は「質実剛健」。教育目標は、「高い知性と豊かな心情、強い意志を培い、心身ともに健康な人格の形成を目指す」。授業改革と地域課題解決型キャリア教育を通じて、社会に貢献できる人材の育成に努めている。

◎設立 1876（明治9）年

◎形態 全日制／普通科・理数科／共学

◎生徒数 1学年約280人

◎2020年度入試合格実績（現浪計）

国立大は、東京大、一橋大、京都大、大阪大、神戸大、鳥取大、島根大、広島大、九州大などに165人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ391人が合格。

◎URL <http://www.matsuekita.ed.jp>

ればよいのか。教師と生徒が一緒に考えるべき課題だと捉えています。

**常松** 様々な活動を生徒主体で行うことは、新学習指導要領の趣旨と照らし合わせても一層重要です。これ

まではよい成果を出そうと、教師が手をかける部分が少なからずありました。これからは、生徒に多くを任せ、失敗も含めて何事も経験させたいと考えています。全校体制で取り組む探究学習において進めている地域との連携を、特別活動を充実させる視点で強化することも課題です。

**中森** 生徒や学校にとって、教師でも生徒でもない地域や外部の人から、特別活動によってどのような資質・能力が生徒に育まれているのかについて評価を受けることは、大きな意味があるでしょう。実は、海外の連携先から、日本の学校は取り組みを外部に積極的に発信すべきだと、アドバイスを受けました。探究学習に限らず、学校祭や部活動でも成果を外部に発信し、形成的評価を受ける。それが次の活動への原動力になると思うのです。そうした社会に開かれた学校づくりは、学校教育に関心が集まっている今こそ、進めしていくべきではないでしょうか。